

4章まとめ(1)

第1節 子どものハサミで形を切り抜く能力・粘土遊びの発達

	必要な能力	ハサミを使う能力	粘土遊び
1. 幼児・児童における未来型能力	なぜ未来型能力か？	手の運動能力は、日常生活に必要な身の回りのことを行う能力である。また手の巧みさは、全身運動の発達よりも精神発達との相関関係が高いことが知られており、自立の基礎となる。	粘土遊びを通して考え、感じて、行動するという子どもの特性を見出す
	現状の把握 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	3歳児：正しいハサミの握り方、持ち方ができない幼児がいる。線に沿って切ることが難しい幼児が多い。 4歳児：全員が正しいハサミの持ち方ができていた。切り抜くのがやさしい形(三角形)と難しい形(円形、四角形)がある。 5歳児：全員が正しいハサミの持ち方ができていた。ほとんどの幼児が、全ての形を線に沿って切ることができていた。	【粘土遊びの特徴】3歳児：手先の使い方は握ることが中心で細かな動かし方は難しい。自分のイメージを形にするまでには至らない。 4歳児：指と手を使ってうまく作品を作れる。小さく千切ってくっつけられる工夫ができるようになってきている。自分のイメージを実現しようと、大きくちぎりを作ろうとするが、うまくいかないのか、イメージと違うのか声を出しながらまた丸めてはすくる。 5歳児：指と手を上手く使い、千切った粘土を片手で重ね合わせ作り上げていくことができる。手先を使い自分のイメージを一つずつ作成していく。 【粘土遊び中の独り言の特徴】 3歳児：自己中心的なおしゃべりであるが、「ね、ね。」と相手に呼び掛けていることは全く自分だけの世界ではなく他人を意識していることが分かる。 4歳児：友達同士で作品を作りながら自分の物語を作っている。 5歳児：先生に呼びかけたり、友達と話しあったりしながらあれこれ考えて作成している。
2. 幼児・児童における未来型能力の育成	育成方法の提案	1、ハサミや版の正しい持ち方ができる 2、ハサミで線に沿って切ることができる 3、ハサミを使って形を切り抜くことができる。	1、イメージした動物ができる 2、表現の交わり愛ができる 3、指先で年度の感触を味わい
	育成カリキュラム実施の結果 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	ハサミで手作りのおもちゃを作る 画用紙でゲームのおもちゃを作る 紙や布を思い通りに切って身近な道具を作る	内容のイメージができる 交わり合うことが多くなると独り言が減った
3. 未来型能力を指導できる指導者育成	現状の把握 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	(幼稚園・小学校の指導者へのインタビュー) ①安全面の指導法 幼稚園：個人差が大きいので、個別の観察、支援が必要。幼児用のものを使用させる。ハサミの持ち方だけでなく、手の動かし方(ハサミを握ることができても上に向けて開くことができない子どもが多いので。) 小学校：安全に関する指導を適切に行う(間違った使い方、危険な行為は毅然とした態度で)。ハサミは切れ味がよく、先の鋭利でない物を選ぶ。指導者にも研修会を実施する。教員のいるときだけに使用させる。 ②適切な道具を選択させるには？ 幼稚園：ハサミを使って楽しいと考えられるようにいつでも自由に使えるように。使い方になれる。幼児同士で鉄の持ち方や切り方について話し合い、注意しあうことで技能が早く身に着く。 小学校：授業の際に、「ハサミ・包丁」を使って勉強することを前もって指導する。いくつかのやり方があることを知らせ、その中からどの道具を使えば早く丁寧に作業が出来るか考えさせる。	
	育成方法の提案・実施	子どもの完成と表現を育む保育者は自らが表現豊かであること	表現の誘いかけ、共感が大切
	育成カリキュラム実施の結果 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	保育者自身がハサミの正しい持ち方を学ぶ 保育者自身の表現的体験の充実	環境への配慮 表現技術の指導効果